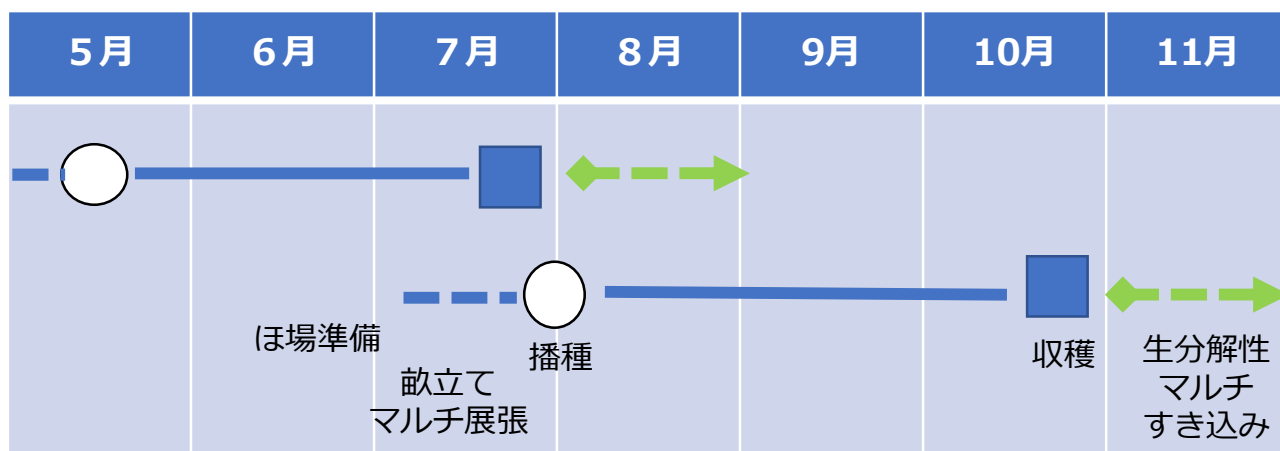


スイートコーン栽培暦

★本資料に記載されている農薬は令和6年時点での内容です。
購入または使用前に必ずラベルや登録内容をご確認ください。

■栽培体系

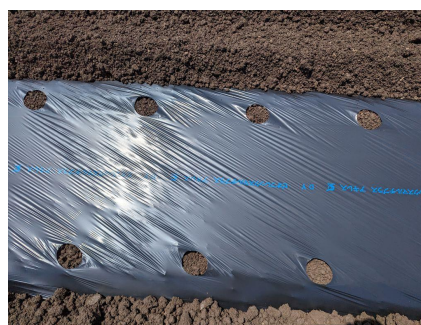
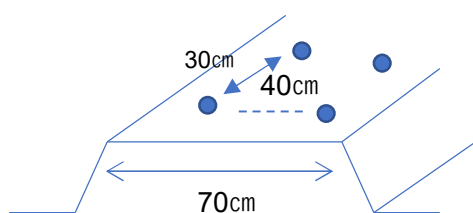


■栽培のポイント

幼苗期は肥料やけが起こりやすいため、元肥は窒素15kg/10aにし、追肥で補う。アワノメイガが発生しやすいため、防除を適期に実施する。色や特性の異なる品種が近隣ほ場にあると異品質の粒が混ざるため注意する。

■ほ場準備・畝立て・マルチ展張

堆肥は十分腐熟したものを植え付け1か月前に1～2t/10a施用し、耕転しておく。幅150cmの畝を立て、播種数日前にマルチを張っておく。マルチは地温確保、雑草抑制のために黒マルチを使用することが望ましい。



	資材名	施用量 【kg/10a】	
元肥	苦土石灰	100	全層混和 (定植1週間前～ 定植直前)
	高島有機1号	30	

■ 播種

1か所に2粒ずつ播種する。播種深は3～5cm程度とし、播種後は鎮圧する。

■ 管理

播種後のかん水は必要ない。本葉2～3枚頃に、生育の悪い株を「地際からはさみで切り、1本にする。播種後、直ちに土壌処理剤を散布する。発生した分けつはすべて残し、本葉5～6枚頃に1回目の追肥（NK化成50kg/10a）を条間に施用し、土寄せする。株の上から雄穂の先が見えた頃に2回目の追肥（NK化成40kg/10a）と中耕培土を行う。また併せてデナポン粒剤5を散布する。絹糸が抽出する頃に葉色が薄くなってくれば硫安で追肥を行う。雌穂の絹糸が暗褐色になり、穂の先端の粒が黄色く変わってきたころが収穫の適期である。収穫は早朝に行い、収穫後は予冷する。

■ 病虫害防除

- ・アブラムシ、アワノメイガ、アワヨトウの被害が大きい
- ・アワノメイガは幼虫がトウモロコシの稈や雌穂に侵入して内部を食害する。雄穂形成期以降は雄穂へ、絹糸抽出前後からは雌穂への侵入が多くなる。
- ・アワヨトウは、昼間はトウモロコシの未展開の葉などに潜み、夜間に摂食して葉に不規則な食痕を残す。（『農業技術大系』作物編 第7巻 基+116の20～基+116の22 より引用）
- ・絹糸抽出後の防除は、雌穂付近に重点を置いて実施する。

時期	農薬名		IRAC
①雄穂出穂期	パダンSG水溶剤	アワノメイガ、ツマジロクサヨトウ	14
②絹糸抽出期	フェニックス顆粒水和剤	アワノメイガ、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ	28
③②から7日後	プレバソンフロアブル5	アワノメイガ、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ	28

■ すき込み

栽培終了後、地上部をモアで刈り取り、そのままロータリーで圃場へ鋤きこむ。2～3回ロータリーで耕運し、マルチが土中に埋まるように耕耘する。土壌表面に残っていると風で飛散したり、分解しない可能性があるため、速やかに土の中にすき込むように注意する。すきこみ後1ヶ月程度で概ね分解される。

★ 生分解性マルチ利用時の注意点

作付け終了後、耕耘し、破碎したマルチが土中に埋まるように耕耘する。土壌表面に残っていると風で飛散したり、分解しない可能性があるため、速やかに土の中にすき込むように注意する。すきこみ後1ヶ月程度で概ね分解される。保管する際は、倉庫等の暗室で保管し、加水分解と劣化により強度や機能が低下するため、購入後1年以内に使用する。